

キャリア教育におけるインターンシップ

「U 工業高等専門学校：物質工学科・教授」

本校では、企業等の就業体験を通して『学生の学習意欲を向上させること』と『高い職業意識を涵養し、責任感や自立心などを醸成すること』を目的としてインターンシップを実施しています。本科でのインターンシップ関連科目として、4年生の選択科目「校外実習 I、II」、専攻科では選択科目として開講しています。本科のインターンシップでは、5日間以上(18日間未満)の『短期インターンシップ』と18日以上『長期インターンシップ』を実施することで単位としています。また、専攻科のインターンシップでは、インターンシップ期間を135時間以上とし、実習時間に応じて最大12単位としています。『長期インターンシップ』では、1ヶ月以上の長期間の業務に関わることで、企業等の活動についての理解の促進、社会人としてのコミュニケーション能力の獲得及び自身のキャリア・デザインの明確化について、学生自身の強化を図ることができます。また、インターンシップでは学生達は実施企業等の担当者を始めとして多くの方と関わることから、本校では、インターンシップ参加学生には事前教育への参加、報告書の作成等を義務づけています。事前教育は、参加の目的や意義、提出書類、ビジネスマナー等の説明及び企業人による講話を実施しています。受け入れ先の決定後から事後の指導までは、本科生はクラス担任が行い、専攻科生は指導教員が担当しています。県内インターンシップでは可能な限り担当教員と学生が事前に受け入れていただく企業等を訪問し、担当者との研修の内容を確認すると共に、就業時間、服装などの打ち合わせを行っています。実習後は報告書を作成し、担当教員が内容を確認した後に企業の担当者に最終確認をお願いしています。また、各学科で報告会を実施し、インターンシップで得られた成果や課題等を報告します。

今年度は、新型コロナウイルス感染禍においても企業のご対応のおかげで、インターンシップの実施はだいぶ回復し、多くの短期インターンシップは実施していただけました。来年度に就職活動を控える4年生の参加が中心となりますが、4年生の学生215名中106名(約50%)、昨年の3倍以上の学生がインターンシップに参加いたしました。その内、山口県インターンシップ推進協議会を通じて県内企業等での短期インターンシップに参加した学生数は4年生66名で、一部の企業ではオンラインでインターンシップを実施していただきました。今年度参加した学生はもちろんですが、これまでにインターンシップに参加した学生は、働くことの大変さや厳しさを実感し、学生と社会人の違いやビジネスマナー・コミュニケーション能力の重要性、自分に足りない能力等に気づいたという感想を報告書に書いておりました。

インターンシップは、進学・就職を目前にした学生にとって、今後の学生生活の取り組みを含め、自身のキャリア・デザインを明確にし、その実現のための目標や課題を考える機会になっています。コロナ禍の影響はまだまだ続くかと思いますが、本校も工夫してインターンシップによるキャリア教育を進めていきたいと考えています。

最後になりましたが、コロナ禍の厳しい状況下で、本校の学生達を受け入れて頂きました事業所の皆様、事前研修及びマッチング等でご支援いただきました山口県インターンシップ推進協議会の皆様に厚く御礼申し上げます。今後とも引き続きご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

コロナ禍におけるインターンシップ

「〇 商船高等専門学校：キャリア支援室長」

山口県東部に位置する本校は、本科3学科と専攻科2専攻となっております。（※本科：商船学科、電子機械工学科、情報工学科、専攻科：海洋交通システム工学専攻、電子・情報システム工学専攻）インターンシップには本科4年生（2022年4月現在129名）、専攻科1年生（同16名）が主な対象となっております。

当校学生の出身中学校の地域別では、学生総数約670名中、山口県内約520名、山口県外約150名となっています。県外の内訳は広島県と福岡県が各約30名ずつで、そのほか九州や近畿・関東地区となっています。また、当校の学生寮には約150名が入寮しています。（専攻科生、留学生を含む）

コロナ禍以前は、山口県インターンシップ推進協議会様をはじめ、多くの組織の方々にご協力いただきながら、学生へのインターンシップに関する情報提供や直前研修も実施してまいりました。しかし、一昨年から新型コロナウイルス感染症対策のため、蔓延状況によっては、学生を登校させずに自宅や学生寮で授業を受けさせる遠隔授業に幾度となく切り替えて実施してきたこともあり、以前のように学校で学生に直接対面しての情報提供、事前確認等を行う指導が限定的となっております。

今年度は4月以降2回、最長約1か月間の遠隔授業に切り替えたこともあり、インターンシップの事前の指導もWeb上に切り替えて実施してまいりました。こうした中、遠隔対応に徐々に慣れてきた学生がいる反面、まだまだ不慣れな学生や自宅等での受講環境が整わない学生も散見され、学校側といたしましても様々な方法を検討の上、実践するなどして対応いたしております。

当校におきましては、山口県外出身者が夏季帰省時に県外にある実家からのインターンシップ先を希望する者や、商船学科の学生が運輸、特に海上において運航中の船舶での実施を希望する者が一定数おり、今夏は遠隔授業も影響したためか、山口県インターンシップ推進協議会様を經由して申し込みをさせていただきました学生は電子機械工学科4年生の1名にとどまりました。

また、7月中旬以降も急遽、遠隔授業に切り替えたため、当初8月初旬に予定していました山口県インターンシップ推進協議会様より講師をお招きしての事前説明会も、Web上での形式に変更させていただきました。その際、山口県インターンシップ推進協議会様よりご提供いただいた資料に音声を付きのものに変換のうえ、さらに再編集させていただき、最終的には、視聴可能な学生から適宜視聴させるオンデマンド形式での実施とさせていただきました。視聴した学生や担任教員から確認の問合せ等が学校にもあったことなどから、一定の効果はあったものと考えております。山口県インターンシップ推進協議会様におかれましては、当校の事情に合わせて柔軟にご対応いただき、有難うございました。御礼申し上げます。

最後になりましたが、昨今、このような状況下におきましても、平素と変わりなく、インターンシップの申し入れや受け入れ準備と実施をしていただいた企業の皆様とその調整にご尽力いただきました山口県インターンシップ推進協議会の皆様に感謝の意を表します。

コロナ禍前を取り戻しつつあるインターンシップ

「T工業高等専門学校：土木建築工学科・准教授」

本年度の学生のためのインターンシップに、ご尽力くださった全ての皆様に深く感謝致します。夏のインターンシップは、学生の進路決定において非常に重要なイベントであります。なぜなら、およそ半数の学生がインターンシップ体験した所へ進路を志望する傾向にあり、その後の報告会でも、クラスメートが紹介した組織に強い興味を持ち、そこから進路志望する学生も少なくないからです。昨今の人材不足も鑑みますと、インターンシップからの繋がりが益々重要であり、各団体様の努力や戦略が伺えました。

インターンシップ活動にあたっては、4月上旬より多くの組織さまより募集をいただき、5~6月に募集要項のピークを迎えます。担任等から学生へ募集要項が紹介されるとともに、県内においては山口県インターンシップ推進協議会様のウェブサイトを利用して学生が主体的にインターンシップ先を検討しました。近年は、就職サイトなどでインターンシップを募集するケースも多く、学生が直接申し込む方式に変わりつつあります。県外企業さまにおいては、このケースがかなり多く、学生が自分でやりとりすることで社会勉強の機会になり、電子的な手続きが行えるために企業様や学校の事務負担が大幅に軽減され、学生との本質的な相談に多くの時間を費やせる効果がありました。

インターンシップを学生が検討する様子を観察すると、以下のような気づきがありました。まず、学生のお財布事情が厳しいこともあり、遠方の場合に交通費や宿泊の支援をくださる所を選択する傾向にありました。皆様の経済的なご支援、濃厚接触などで出勤不能の場合も柔軟にスケジュール調整くださり、心より感謝申し上げます。また、募集要項をざっくり作成されている所には、ほとんど興味が集まっておりません。1枚ものの募集要項でも文字ばかりの所より、ポスタータイプでわかりやすくPRされている所は、学生の興味もかなり集まっていました。さらには、Youtubeにおける魅力的なPR動画をQRコードなどで提供された企業様へのインターンシップは、まさに入れ食い状態でありました。これから頂戴する求人票にも、同様の傾向が現れると考えております。

ちょうど現在は、学内でのインターンシップ報告会の真っ最中であります。イメージどおりであった、想像以上に仕事に興味を持つ社員職員の方々も非常にフレンドリーであった、5日間永遠のCAD地獄であった、など様々な報告を聞いております。仕事の内容ややりがいを知ることも重要なのですが、訪問先の皆様と充実したコミュニケーションをとれたかどうか、インターンシップの経験に強く影響していると感じました。その他にも、自分の人生のスタイル、働き方にマッチしているかも強く見ておりました。業務量のコントロールが苦しいところや、本質的な残業対策のないところには興味が集まっておりませんでした。

これから、学生は就職や進学に向けた進路選択を本格化して参ります。このインターンシップにおいて、皆様から頂いた多大なるご支援を活かし、学生と共にくんと悩む冬を過ごさせて頂きます。